

河川工作物アドバイザー会議の経過報告・今後の予定

1. 令和7年度（2025年度）河川工作物アドバイザー会議の開催状況

- ・第1回会議（令和7年8月5日（火）～8月6日（水）羅臼町ほか）
- ・第2回会議（令和8年1月27日（火）TKP 札幌ビジネスセンター）

2. 主な議事内容

(1) 長期モニタリングについて（報告）

- ① 令和7年度オショロコマ等長期モニタリング調査結果について
今年度の長期モニタリング計画に基づくオショロコマ等調査結果について報告。
- ② 令和7年度長期モニタリング結果について（サケ類）
今年度の長期モニタリング計画に基づくサケ科魚類の調査結果について報告。

(2) 令和7年度の実施状況と計画・検討について

- ① ルシャ川河床路の状況について
9月の増水により河床路の一部が決壊。埋もれていたコルゲート管を使い応急的に復旧を行ったことと、今後の予定（案）について説明。
- ② ルシャ川治山ダムの効果検証について
2024年までにダムの切り下げが完了した報告と、2025年度から2027年度までの3か年で改良の効果を検証するため防災機能、河川環境、長期モニタリング実施を説明。
- ③ オッカバケ川治山ダムの改良について
2号ダムから1号ダム周辺の河川等の状況変化や水位・流量調査を報告。
- ④ イウベツ川治山ダムの改良について
3号ダムスリット化に伴う粒径分布調査の報告と、サクラマスの遡上状況を報告。
- ⑤ しれとこ100平方メートル運動のイウベツ川における取り組みについて
サクラマスの遡上状況調査とイウベツ川における魚類生息状況調査を報告。
- ⑥ 羅臼川におけるモニタリング調査について
サケ・マス産卵床調査報告及び5号床止工の改修経緯と今後の対応について説明。
- ⑦ サシルイ川治山ダムの効果検証について
現在までの対応状況と大雨による河川状況変化、カラフトマスとサケのモニタリング調査結果を報告。

(3) その他

- ① 知床国立公園ルサ園地の再整備について
ルサ園地の再整備について、これまでの整備状況と今後の整備計画について報告。
- ② 第47回世界自然遺産委員会決議に係る対応について
第47回世界自然遺産委員会決議に係る対応方針と今後の作業スケジュールを説明。
- ③ 知床世界自然遺産登録20周年事業「世界遺産と地域」の進捗について
知床世界自然遺産登録20周年事業「世界遺産と地域」の進捗状況について報告。
- ④ ニカリウス地区における携帯基地局整備報告
携帯基地局整備を一旦立ち止まることと、新たな衛生通信技術の検証方針について説明。

(4) 今後の予定

令和8年度第1回河川工作物アドバイザー会議を7月下旬から8月上旬に斜里町で開催予定。

■ 河川工作物アドバイザー会議からの検討課題

(1) オオショロコマ等長期モニタリング調査結果について

多くの河川で水温が上昇、魚類相はほぼ例年どおりであるが今年初めてアメマスが採捕された。調査河川全体でオショロコマは増減傾向ではないが、3河川で減少傾向にある。

3調査区ではヤマメの生息密度がオショロコマを上回り、オショパオマブではオショロコマ DNA が今年も検出されず局所絶滅した可能性があるものと思量。また、ルシャ川下流の滞筋が大きく変化し、来年度以降の調査個所選定が課題。

- ① 上下流の DNA 分析結果が類似しているため、6年目以降は下流のみの調査とすることで、24河川の環境 DNA 分析を実施することができないか検討されたい。
- ② 知西別上流でオショロコマが採捕されなかったことから、水温が高くなる要因として、ダム の位置から周辺の樹木の状況、ダム の構造、設置年等も参考に検討すべき。
- ③ ルシャ川の河川の流れが変わったことから、ルシャ下流の調査個所は、河口からの距離が変わらない滞筋とすべき。

(2) カラフトマス遡上調査について

遡上時期に合わせて9月から10月上旬に調査を実施したが、遡上数、産卵床数ともにゼロとなり、8月下旬から9月上旬にルシャ川で行った別の調査では、遡上、産卵が確認されたことから、遡上時期が早まっている可能性がある。

- ① 遡上時期が早まっているのは世界的な傾向であることから、遡上調査の適切な時期については、過去の調査結果を整理した上で決める必要がある。
- ② カラフトマス遡上が急速に減っているが漁獲は禁止されていない。このままでは絶滅してしまうので、遡上が維持できるような取り組みができないか。
- ③ 絶滅に向かって深刻に見える数値であることから、このことを漁業者とも情報共有すべきであり、科学委員会や海域WGと合同で検討することも必要である。

(3) ルシャ河床路について

9月の増水により河床路の一部が決壊。埋もれていたコルゲート管を使い応急的に復旧を行ったが、流心が右岸側に移ったため、来年度のAPにて現地検討を行った上で復旧方法を検討すべき。

- ① 河床路を右岸側まで伸ばしたらどうか。現在の河床路部分がもっとも低い位置にあるため、低いところの幅を広げてはどうか。
- ② コルゲート管では今後の増水には耐えられない。また、コルゲート管ではサケ・マスは遡上できなくなるので、コルゲート管を通す以外の構造考えるべき。
- ③ 今後も川の流れは動くので、通行の必要性について、漁業者との話し合いを始めることが必要。

(4) サシルイ川治山ダムの効果検証について

これまでの魚道の改良工事、石組みの追加、魚道の拡幅など取組状況を説明。昨年の9月と11月の大雨により土砂が下流に堆積し、これを除去して魚道上流部に石組みを追加。この大雨により産卵床が流出や埋没した可能性もあり、サケの第1ダム上流側の産卵床比率は4.6%であったことを報告。

ここは元々スリット化や引き込み型魚道などの議論がされてきており、セカンドベストとして左岸側の魚道を活かした手法を取り入れたところ。しかし、今回の大雨のように土砂が堆積して悪影響を及ぼすことや、遡上するには横方向への動きが必要となることから、スリット化も含め抜本的な対策を考える必要がある。